

こうかい ひこうかい べつ
公開・非公開の別

■公開 □部分公開
□非公開

だい かい は ま ま つ し が い こ く じ ん し み ん き ょ う せ い し ん ぎ か い か い ぎ ろ く 第1回浜松市外国人市民共生審議会会議録

1 かい さい に ち じ 令和8年7月6日(月) 午後6時00分から午後7時30分

2 かい さい ば しょ は ま ま つ し や く し ょ ほ ん か ん かい ち ょ う ぎ し つ
開催場所 浜松市役所 本館5階 庁議室

3 し ゅ っ せ き じ ょ う き ょ う
出席状況

委 員 あ い か わ アンジェラ
アルバレス アントニ
お が さ わ ら め い
小笠原 盟
ゴーレ ブペンドラ クマラ
さ え き や す た か
佐伯 康考
ただ お
只尾 ジェニファー
ディマス プラディ
フィルダウス プリヨ ハルトモ
む ら ま つ ま さ と し
村松 正利

(け い し ょ う り ゃ く ご じ ょ う お ん じ ゅ ん
(敬称略・五十音順))

事 務 局 こ く さい か か ち ょ う ま つ い よ し か ず
国際課 課長 松井 由和
こ く さい か か ち ょ う ほ さ お お は ら ゆ き
国際課 課長補佐 大原 佑枝
こ く さい か ふ く し ゅ か ん だ い と う
国際課 副主幹 大東 たかし
こ く さい か ふ く し ゅ か ん お お は し か ず ひ ろ
国際課 副主幹 大橋 一裕
こ く さい か し ゅ に ん と や ま ゆ う た
国際課 主任 外山 裕太

4 ぼ う ち ょ う し ゃ 3 人 (い っ ぱ ん 2 人、記 者 : 1 人)

5 ぎ じ ない ょ う
議 事 内 容 (1) い い ん ち ょ う ふ く い い ん ち ょ う せ ん に ん
委員長・副委員長の選任
(2) は ま ま つ し た ぶ ん か き ょ う せ い し ざ く
浜松市の多文化共生施策について
(3) こ ん ご し ん ぎ
今後の審議のテーマについて

6 かい ぎ ろ く さ く せい し ゃ こ く さい か お お は し か ず ひ ろ
会議録作成者 国際課 大橋 一裕

7 き ろ く ほ う ほう
記 録 の 方 法 は つ げ ん し ゃ よ う て ん き ろ く
発言者の要点記録
ろ く お ん う む あり な し
録音の有無 (有) 無

8 会議記録

1 開会・挨拶 《国際課長挨拶》

《委嘱書の授与》

《事務局職員紹介》

2 委員自己紹介 《各委員による自己紹介》

3 議題 (1) 委員長・副委員長の選任 《事務局から審議会の趣旨説明後、委員の互選により委員長及び副委員長を選出》

委員長 佐伯 康考委員
副委員長 アルバレス アントニ委員で決定した。

(2) 浜松市の多文化共生施策について

《事務局から説明》

(3) 今後の審議のテーマについて (事務局からの説明に対する意見・感想、今後の審議のテーマについて)

（事務局テーマ案説明）

浜松市では、先ほどの説明でも触れたとおり、第3次多文化共生都市ビジョンを策定しております。浜松市としては、このビジョンで重点事項としている取組の中から、3つのテーマ案を考えております。

1つめは「デジタルツール普及時代における情報発信の整備」です。デジタル機器の普及や

AIの急速な進歩に対応した情報発信、情報共有の方法について、当事者の目線からご意見をいただきたいと考えております。

2つめは「ライフステージに応じた支援体制の構築」です。第6期で「高齢化」、第7期で「子育て」について議論してまいりました。外国人市民は多様化しており、これまで多かった永住者

ていじゅうしゃとう みぶんけい ざいりゅうしかく こんご とくていぎのう こうどがいこくじんざい ぞうか ちょうき
や定住者等の身分系の在留資格だけでなく、今後、特定技能や高度外国人材の増加、長期
たいざい み こ らいねんど いくせいしゅうろうせいど はじ こんかい とく
滞在が見込まれています。さらに来年度からは育成就労制度も始まります。今回は特にそう
あら ちょうきたいざい み こ かたがた おう しえんたいせい こうちく
した新たに長期滞在が見込まれるような方々のライフステージに応じた支援体制の構築につ
しんざ かんがえて
いて、審議していただきたいと考えております。

そうごりかいそくしん こうりゅうきかい じゅうじつ こと ぶんかてきはいけい も
3つめは「相互理解促進のための交流機会の充実」についてです。異なる文化的背景を持つ
ひとびと たが ぶんか かちかん りかい きょうせい じちかい はじ ちいき
人々が、お互いの文化や価値観を理解し、共生していくために、自治会を始めとする地域コミ
つう こうりゅうきかい じゅうじつ ちいきしゃかい にな て かつどう さんかく
ュニティを通じた交流機会の充実や、地域社会の担い手としてさまざまな活動に参画して
ほうほう いいん みなさま いけん かんが
いく方法などについて、委員の皆様からご意見をいただきたいと考えています。

いじょう ぐたいてき しさく はんえい ぎろん かんが
以上のテーマについて、具体的な施策に反映するため、議論していただきたいと考えています。

いいん みなさま いけん ねが
委員の皆様にご意見をいただきたく、よろしくお願いいたします。

さえきいいんちょう
(佐伯委員長)

せつめい ほんじつ あん ほうこうせい
ご説明ありがとうございます。本日、3つの案が示されました。まずこちらの方向性とビジ
ョンに加えて、DX（デジタルトランスフォーメーション）についてお話しします。ポルトガル語
くわ へな ご
やスペイン語だけではなく、はままつ じゅうみん くに かず こく げんごすべ
やスเปน語だけではなく、浜松にいる住民の国の数が87か国とのことですから、87言語全
つうやくほんやく たいおう むずか なか
ての通訳翻訳に対応することは難しくなっています。そうした中で、デジタルというのが
じゅうよう い つか たいおう むず そくめん
重要なツールになっていくと言えます。これを使わなければ対応が難しい側面もあります。こ
つか かつよう とく みなさま つか
のデジタルツールをどう使いながら、AIというものも活用して、特に皆様が使われているアプ
つか し ひろ とど
リなども含めて、デジタルを使うことで、市のサービスをより広く届けていくことができるので
みな ぎろん
はないか。これが皆さんと議論していきたいテーマの1つめです。

なが す かた ふ なか たいおう こそだ たいしよくご
2つめは、長く住んでいる方が増えていく中でのライフステージ対応です。子育てから退職後
あ しえんたいせい せいび かだい
まで、それぞれのステージに合わせた支援体制を整備することが課題となります。

そうごりかい にほんじんしみん がいこくじんしみん たが
3つめは相互理解です。インターカルチュラルということで、日本人市民と外国人市民がお互い
そうごりかい ふか あたら かち つく
に相互理解を深めながら、新しい価値を作っていきたいということです。

あん みなさま ぎろん
これを3つめとしたいのですが、これはあくまで案です。皆様からこういうことを議論していき
たいというご意見をいただきながら、決めていきたいと考えています。30分程度の時間があります
いけん き かんが ぶんていど じかん
ので、挙手制で進めたいと思いますが、また私から指名させていただく場合もありますので、
きよしゆせい すす おも わたし しめい ばあい
ご了承ください。

(ディマス委員)

具体的な内容ではありませんが、行政が考えている施策をなるべくコミュニティに浸透させる必要があると考えています。しかしながら、コミュニティの実情が存在する中で、どのように浸透させるかが課題です。ツールとしては、すでに浸透し始めている組織を活用する必要があります。例えば、インドネシア人コミュニティの場合、私たちが行政の政策の考え方を理解した上で、それをパイプとしてコミュニティに流し込む必要があります。

今後、私たちがそれぞれの分野で行政の取組と繋がりを持つ際に、様々な分野における入り口を作る必要があるのではないかと思います。例えば、私は学生の頃にNPOに参加することでまちの政策に触れることができました。また、障害を持つ方々であれば、それなりに市の政策を理解した上で関わってもらうことで、実施されている取組を自分たちのコミュニティに持ち帰り、初めてコミュニティ全体に少しずつ浸透していくような流れが生まれます。ですから、まず各分野がどのような施策に関わっているのかを把握した上で、それぞれの分野に対して行政への入り口を作っていくことが重要だと思います。

(佐伯委員長)

ありがとうございます。どうやってコミュニケーションが成立していくのか、これは3つめのテーマにも関わってきます。住民同士だけではなく、行政とのコミュニケーションも非常に重要な視点ではないかと考えます。

(ジェニファー委員)

ライフステージについてです。これまで高齢化や子育てについて議論してきましたが、これからは外国人のお子さんたちも日本で育つ機会が増えてくるでしょう。私は日本人ではありませんので、言葉の壁はどうしても存在します。ただし、言葉ができなくても当たり前であり、日本に来る前の準備段階で対応することもできます。

ライフステージということで考えると、子育てだけではなく、成長段階全体を見守るような対策があるとよいと思います。これは個人的な意見ですが、妊娠初期から生まれるところまで含めた、生涯全般にわたる支援が必要ではないかと考えます。

さ えき いん ちやう
(佐伯委員長)

その通りです。非常に大事な視点をいただきました。妊娠初期から出生、その後の成長まで、生涯全般にわたる問題について、しっかり議論していきたいと思います。

い い ん
(ゴーレ委員)

先ほどディマス委員がおっしゃった通り、行政と繋がる入り口が非常に大事ではないかと思っています。多くの外国人が自分たちだけで何とか対応しようとしながら、必死で生きているというのが現状なのだろうと思います。自分たちだけでやろうとするのではなく、行政とどう上手に繋がり、地域に密着できるかが1つの大きなポイントになるのではないのでしょうか。

実際のところ、自分たちだけで対応できるという実感を持っている方は少ないと思います。長年、浜松に住んでいる私自身でも、自治会や地域のボランティア活動に関わっていますが、多くの方が地域に馴染みたいと考えていても、どのような活動に参加すればよいのか分からないという状況にあります。

また、日本人のコミュニティにおいても同様の課題があり、偏見の問題なども存在します。これらをどのように解決していくかというのは、私の大きな役割だと思っています。このような繋がりを作ること、みんなが協力できる浜松の体制を作ることが、非常に大きなポイントではないのでしょうか。

災害についても、多くの外国人が備蓄等をやっています。隣同士で助け合いたいけど、どうすればいいのか、わからない。災害時の対応についても同じで、自分たちだけではなく、家族や地域全体でどう助け合うのが課題です。情報発信の方法についても、外国人にしっかり伝わるような工夫が必要です。

入り口の創出とそこからどうやってリードしていくかが最も大事ではないかと思っています。例えば、災害があった時、ボランティア活動などについても、どこで何をすればいいのか、どのような形で参加できるのかが不明確なままになっていることが多いです。これまで以上に、情報発信と繋がり構築が重要だと考えています。

さ えき いん ちやう
(佐伯委員長)

ありがとうございます。やはり、どう繋いでいくのか、入り口の部分と、そこからどのように展開

していくのが重^{じゅうよう}要ですね。

(アンジェラ^{いいん}委員)

ライフステージについて、重^{じゅうよう}要^{おも}だ^{こま}と思います。細^{むずか}かくイメー^{ひつよう}ジするのは難^{むずか}しいですが、必要^{ひつよう}だ^{おも}と思います。言葉^{ことば}だけでは、なかなか外国^{がいこくじん}人に^{つた}まで伝^{ぐたいてき}わりません。具^{えが}体的なシナリオやモデル^{しめ}ケースを描^{えが}き、それぞ^{しみん}れの市民^{けいけん}の経^{しめ}験^{しめ}を示^{たいせつ}していくことが大切^{たいせつ}です。

例^{たと}えば、小^{しょうがくせい}学^{とき}生^{とき}の時^{とき}にはど^{てつづ}のような手続^{しえん}きや支^{ひつよう}援^{きょういくいいんかい}が必要^{ぎようせい}で、教^{きょう}育^{いく}委^{いいん}員^{かい}会^{かい}や行^{ぎょう}政^{せい}とど^{ぎょう}のよう^{ぎょう}に繋^{つな}がるのかとい^{ぐたいてき}う具^{しかくてき}体的^わで、視^{じょうほう}覚^よ的^{おも}に分^{しんてん}かりや^{しんてん}すい情^{しんてん}報^{しんてん}が^{しんてん}あ^{しんてん}れば良^{しんてん}いと思^{しんてん}います。AIの進^{しん}展^{てん}により、マッ^{じょうほう}プ^わやホー^{ていきょう}ム^{かのう}ペー^{かのう}ジでこ^{かのう}うした情^{かのう}報^{かのう}を分^{かのう}かりや^{かのう}すく提^{かのう}供^{かのう}するこ^{かのう}とも可^{かのう}能^{かのう}になっ^{かのう}てき^{かのう}ました。

複^{ふく}雑^{ざつ}な行^{ぎょう}政^{せい}窓^{まど}口^{ぐち}を、も^わっとシ^わン^わプ^わルで分^{しかくてき}かりや^{りかい}すく、かつ視^{かたち}覚^{かたち}的^{かたち}に理^{かたち}解^{かたち}で^{かたち}き^{かたち}る形^{かたち}に^{かたち}して、
外国^{がいこくじん}人^{はあく}でもす^{じゅうよう}ぐに把^{じゅうよう}握^{じゅうよう}で^{じゅうよう}き^{じゅうよう}るよ^{じゅうよう}うに^{じゅうよう}す^{じゅうよう}るこ^{じゅうよう}が重^{じゅうよう}要^{じゅうよう}です。

私^{わたし}は外国^{がいこくじん}人の金^{きん}融^{ゆう}リテ^{きん}ラシー^{ゆう}につ^{きん}いて様^{さま}々^ざな取^{とり}組^{くみ}をし^{きん}ていま^{きん}すが、言^{こと}葉^ばだ^{りかい}け^{りかい}では理^{りかい}解^{りかい}するこ^{りかい}と^{りかい}が難^{むずか}しいこ^{むずか}が^{むずか}多^{おほ}い^{おほ}です。モ^{つか}デル^{つか}ケ^{つか}ース^{つか}を使^{ぐたいてき}って、具^{しめ}体的^{しめ}なシナ^{はじ}リオ^{はじ}を示^{はじ}すこ^{はじ}と^{はじ}で、初^{はじ}め^{はじ}て理^{りかい}解^{りかい}が^{りかい}進^{すす}み^{すす}ま^{すす}す。例^{たと}えば、子^こ育^{そだ}て^{そだ}の^{そだ}ス^{そだ}テ^{そだ}ー^{そだ}ジ^{そだ}ご^{そだ}と^{そだ}に^{そだ}必^{ひつ}要^{よう}な^{よう}手^て続^{つづ}き^{つづ}や^{つづ}支^し援^{えん}、ど^ぶの^ぶ部^ぶ署^{しょ}に^そ相^{そう}談^{だん}す^{だん}れ^{だん}ば^{だん}よ^{だん}い^{だん}のかとい^{じょうほう}った情^わ報^わを、分^{ていきょう}かり^{じゅうよう}や^{かんが}すくマ^{かんが}ッ^{かんが}ピ^{かんが}ン^{かんが}グ^{かんが}し^{かんが}て^{かんが}提^{かんが}供^{かんが}するこ^{かんが}が重^{かんが}要^{かんが}だ^{かんが}と考^{かんが}え^{かんが}ま^{かんが}す。結^{むす}び^{むす}つ^{むす}け^{むす}るよ^{まどぐち}うな窓^{むす}口^{むす}が^{むす}必^{むす}要^{むす}です。

(佐^さ伯^{はく}委^い員^ん長^{ちよう})

あ^{ざいりゅうしかく}りが^{めん}とう^{めん}ご^{めん}ざ^{めん}い^{めん}ます。在^{ざい}留^{りゅう}資^{しかく}格^{めん}の面^{めん}は^{めん}ど^{めん}う^{めん}で^{めん}し^{めん}ょう^{めん}か^{めん}？

(村^{むら}松^{まつ}委^い員^ん)

在^{ざい}留^{りゅう}資^{しかく}格^{めん}に^{かん}関^{かん}するこ^{かん}と^{かん}で^{かん}す^{かん}が、こ^{かん}れ^{かん}は^{かん}ラ^{かん}イ^{かん}フ^{かん}ス^{かん}テ^{かん}ー^{かん}ジ^{かん}と^{かん}同^{どう}様^{よう}に^{じゅうよう}重^{もん}要^{だいい}な^{にほん}問^き題^きで^きす。日^に本^{ほん}に^き来^きて^き
良^よか^よつ^よた^よと思^{おも}え^{おも}るこ^まと、真^ま面^め目^めに^{せい}生^{かい}活^{かつ}し^{かい}よ^{かい}う^{かい}と^{かい}す^{かい}る^{かい}外^{がい}国^{こく}人^{じん}に^{かい}と^{かい}つ^{かい}て、納^{のう}税^{ぜい}の義^ぎ務^むを^は果^はた^はして^はい^はる^はこ^はと、年^{ねん}金^{きん}な^{のうふ}ど^{じゅうよう}の納^{じゅうよう}付^{じゅうよう}は^{じゅうよう}重^{じゅうよう}要^{じゅうよう}で^{じゅうよう}す。

た^{もんだい}だ^{ふくざつ}し、^{きてい}タイ^しミ^{あいだ}ン^{ふり}グ^{じょうきよう}の^{おちい}問^{かた}題^{おお}や^お複^た雑^{かいしゃ}な^や規^{てつづ}定^{しゃかいほけん}に^{こくみんけんこうほけん}よ^きり、知^から^{ねんきん}ない^{ねんきん}間^{ねんきん}に^{ねんきん}不^{ねんきん}利^{ねんきん}な^{ねんきん}状^{ねんきん}況^{ねんきん}に^{ねんきん}陥^{ねんきん}る^{ねんきん}方^{ねんきん}も^{ねんきん}多^{ねんきん}く^{ねんきん}い^{ねんきん}ます。例^{たと}えば、会^{かい}社^{しゃ}を^や辞^{てつづ}め^{しゃかいほけん}る^{こくみんけんこうほけん}こ^きの^か手^{ねんきん}続^{ねんきん}き^{ねんきん}で、社^{しゃ}会^{かい}保^{てつづ}険^{しゃかいほけん}か^{こくみんけんこうほけん}ら^き国^か民^{ねんきん}健^{ねんきん}康^{ねんきん}保^{ねんきん}険^{ねんきん}に^{ねんきん}切^{ねんきん}り^{ねんきん}替^{ねんきん}え^{ねんきん}、年^{ねんきん}金^{ねんきん}

ほけんりょう しはら じ き じゅうよう がいこくじん せいかく じょうほう え
保険料の支払い時期など、こうした重要なポイントについて、外国人が正確な情報を得てい
ない場合が多いです。後納になると、永住許可の申請時に、過去の納付漏れが理由で不許可に
なるというケースもあります。大切なことは、知らなかったために損をするという事態を避ける
ことです。留学生に対する免除についても、知らなかったということで、活用されていない
場合があります。こうした制度について、外国人が知らないうちに不利益をならないよう、わか
りやすく情報提供することが重要です。

がいこくじん し やくしょ にゅうかん しきい たか かん おも せんもん まどぐち
外国人にとって、市役所や入管の敷居が高いと感じていると思います。専門の窓口をつくっ
て、Facebook などを活用して、分かりやすい情報発信と、それに対する適切なフォローが必要
です。行政窓口と市民の間に、しっかりとした繋がりが必要だと思っています。

さ えきいんちよう
(佐伯委員長)

ありがとうございます。日本人でも、分かりにくく、難しいというものを、いかに分かりやすく、
情報提供するかということがすごく重要ですね。

ふくいんちよう
(アントニ副委員長)

ぜんぶ つな おも げんじよう じょうほう まどぐち い て い
全部が繋がっていると思いますが、現状では、情報を窓口に行かないと、手に入れることが
できません。市民が窓口に行かなくても、いつでもどこでも分かりやすい情報にアクセスでき
るようにすることが必要です。在留資格、税金関係、保険関係、ライフステージに関する情報
など、ほとんどの相談は、HICE でやっていますが、市民がそれらの窓口にあまり行かないという
のが現実です。仕事の都合などにより、市役所に足を運ぶことが難しい方も多くいます。DX や
IT を活用して、市民が窓口に行かなくても、簡単に正確な情報を手に入れられる仕組みを作
ることが重要です。

いいん
(ゴーレ委員)

ぎょうせい たてまえ ぶぶん にほんじん うんえい わたし がいこくじん
行政は建前という部分があります。HICE は、日本人が運営しています。そこで、私たち外国人
の審議会がどう動くかがポイントです。

じぶん じょうほう え しゅっしんしゃ み じょうほう
自分は、情報を得ることができていますが、ネパール出身者のコミュニティを見ると、情報
がほぼ届いていないという状況が見られます。

さ えき いん ちやう
(佐伯委員長)

それでは、それぞれの立場から、これが欲しい、これが重 要 だということ挙げてください。

おがさわら いん
(小笠原委員)

わたし たちは、まずコミュニティの一人一人が責任者としての役割を果たすことが大切だと思
います。中国 文化を子供に教えるだけではなく、実際に、中 国 ならではのイベントを定期的に開
催しています。今後、こうしたイベントを実施する際には、単に皆で集まって楽しむだけではな
く、浜松市の取組などについて、チラシなどを通じてPRしていくこともルートではないかと思
います。

また、AI の進展により、一般的な質問に自動で答えるアプリケーションの開発も可能になって
きました。市民が 入 力 すると、選択肢が表示されるような仕組みを使えば、より効率的に対応
できるのではないのでしょうか。ただし、全ての人が対面での相談を希望するわけではなく、複数
の選択肢があることが理想的です。AI設置して、わからなければ、職 員 に対応する。中 国 人
からの 話 ですが、来日間もない外国人の場合、市役所に通訳がないため、話 が通じない部分
があったようです。AI で、こうしたコミュニケーション面での課題を解決することも重 要 だと
おも います。

さ えき いん ちやう
(佐伯委員長)

ありがとうございます。コミュニケーション面での課題は重 要 ですね。

むらまつ いん
(村松委員)

ほんやく すで どうにゆう
AI翻訳は既に 導 入 しているところもありますか？

さ えき いん ちやう
(佐伯委員長)

あた 新 しいことでこれから劇的に変わっていくでしょうから、これからトライアルしながらという
ことでしょうね。

(ハルトモ^{いいん}委員)

日本^{にほん}に入^{にゅうこく}国^{がいく}する外国人^{がいこくじん}全員^{ぜんいん}にとって、住^{じゅう}民^{みん}登録^{とうろく}は非常^{ひじょう}に大事^{だいじ}なチャンスです。ここで
徹^{てつ}底的^{ていき}なオリエンテーション^{おリエんてーしょん}を実施^{じっし}すべきです。1週^{しゅう}間^{かん}程度^{ていど}の泊^とまり込^こみオリエンテーション^{おリエんてーしょん}
を行^{おこな}い、地^ち域^{いき}によって異^{こと}なる自治^{じち}会^{かい}のルールの風^{ふう}習^{しゅう}について、詳^{くわ}しく説明^{せつめい}することが考^{かんが}えら
れます。

ビザ更^{こう}新^{しん}の時期^{じき}も重^{じゅう}要^{よう}なチャンスです。例^{たと}え、更^{こう}新^{しん}の時^{とき}に、自治^{じち}会^{かい}から推^{すい}薦^{せん}状^{じょう}をが必^{ひつ}要^{よう}
にすると、か、外国^{がいこく}人^{じん}が真^ま面^め目^めに生^{せい}活^{かつ}し、防^{ぼう}災^{さい}訓^{くん}練^{れん}、ごみ捨^すてなど、地^ち域^{いき}のルールも守^{まも}っている
ことを確^{かく}認^{にん}することが大^{たい}切^{せつ}だと思^{おも}います。全^{すべ}ての外国^{がいこく}人^{じん}が真^ま面^め目^めに生^{せい}活^{かつ}しているわけではあり
ません。ゴミ捨^すてのルール違^{いはん}反^{はん}などは、しばしば外国^{がいこく}人^{じん}全^{ぜん}体^{たい}に対^{たい}する負^つのイメー
ジに繋^{つな}がってしま^{しま}います。実^{じつ}は、最^{さい}初^{しよ}の教^{きょう}育^{いく}が不^ふ十^{じゅう}分^{ぶん}である場^ば合^{あい}も多^{おほ}い
です。住^{じゅう}民^{みん}登^{とう}録^{ろく}だけではなく、しっか^{しよ}りとした初^{しよ}期^きオリエンテーション^{おリエんてーしょん}を通^{つう}じて、地^ち域^{いき}のルールを理^り解^{かい}して
もらうことが重^{じゅう}要^{よう}です。

(佐^さ伯^{えき}委員^{いんちよう}長)

ありがとうございます。摩^{まさ}擦^{さつ}をどう減^へらしていくのかが重^{じゅう}要^{よう}で、三^{さん}番^{ばん}目^めの相^{そう}互^ご理^り解^{かい}交^{こう}流^{りゅう}は大^{だい}事^じ
ですけれども、ま^まず、基^き本^{ほん}的^{てき}な部^ぶ分^{ぶん}をや^やった上^うでの、交^{こう}流^{りゅう}機^き会^{かい}とい^いうこと
でしょう。

(ディマス^{いいん}委員)

コ^こミ^ミュ^ュニ^ニティでの生^{せい}活^{かつ}をア^たリに例^おえたいと思^{おも}います。日^に本^{ほん}人^{じん}の目^めの前^{まえ}ではゴ^ごミをきち^きん^んと分^{ぶん}別^{べつ}
するの^のに、一^{いつ}旦^{たん}プ^ぷライ^{らい}ベ^べー^いトなス^すペ^ぺー^いスに入^{はい}入^いると分^{ぶん}別^{べつ}しな^ないとい^いうケ^けー^すスが
あ^あるし^して、一^{いつ}匹^{びき}のア^あリが
出^でたら、お^おい^いし^しい^いも^もの^のを
与^あて^てて持^もち替^かえ^えら^らせ^せる。
コ^こミ^ミュ^ュニ^ニティを成^{せい}長^{ちやう}
さ^させ、育^{いく}成^{せい}さ^させるこ^ことが重^{じゅう}要^{よう}です。一^{ひとり}人^{にん}のリー^{りー}ダーが正^{ただ}しい行^{こう}動^{どう}を示^{しめ}すと、
そ^その影^{えい}響^{きやう}がコ^こミ
ュ^ュニ^ニティ全^{ぜん}体^{たい}に波^は及^{きやう}します。行^{ぎやう}政^{せい}がや^やるべ^べきこ^ことは、一^{ひとり}人^{にん}の人間^{にんげん}を育^{いく}成^{せい}するこ^こと
かもし^しれ^れま^ません。

ど^どこにど^どのよ^ようなコ^こミ^ミュ^ュニ^ニティが存^{そん}在^{ざい}し、ど^どのよ^ような構^{こう}成^{せい}で成^なり立^たっているの^のか、とい^いうこ^ことを
把^は握^{あく}するこ^ことが重^{じゅう}要^{よう}です。理^り想^{そう}は、ゴ^ごミをポ^すイ捨^{おも}てしよ^{しよ}うと思^{おも}つたら、コ^こミ^ミュ^ュニ^ニティの誰^{だれ}か
が「それはや^やつてい^いけ^けま^ませんよ」と自^し然^{ぜん}に声^{こゑ}をかけ^{かけ}られ^{られ}るよ^ような成^{せい}熟^{じゆく}したコ^こミ^ミュ^ュニ^ニティが形^{けい}成^{せい}
され^{され}ること^{こと}です。

さ えき いん ちやう
(佐伯委員長)

はな じやうたい じぶん かって けいせい かお み つな
離れた状態では、自分たちのルールが勝手に形成されてしまいますが、顔が見えて繋がってい
れば、そうはならないということですね。繋がりを作ることが重要だと思います。

ほんじつ ぎろん
本日の議論をまとめます。

まず、デジタル面についてですが、AIの活用も含めて、いかに有効活用していくかが非常に重要
です。これについては、皆様の意見を聞きながら、さらにどのような使い方が可能かを議論して
いきたいと思っています。

2点目のライフステージについては、現在の表現が抽象的であり、もっと分かりやすく伝
える必要があります。各ステージに必要な情報を、より分かりやすく届けることが大切です。
特に在留資格が厳しくなっている中で、重要な情報をしっかりと届けることが重要です。
ここでは分かりやすさを意識することが大事かと思っています。

3つめの相互理解交流機会の充実については、行政とコミュニティがどのように繋がり、顔
が見える関係を作っていくのかということを意識する必要があります。基本的な摩擦を生まな
いルール教育の部分も含めて、どのように相互理解を深めていくのか、また行政との関係を
作っていくのかを考えていきたいと思っています。

こんご じむきよく ほう ひやうげん けんとう おも ほうしん
今後、事務局の方でも表現を検討いただきたいと思います。この方針でよろしいでしょうか。

いちどう りやうしやう
一同：了承。

ふく いん ちやう
(アントニ副委員長)

ほんじつ しょかい ぐたいてき いけん た いいん いいん ちが おも
本日は、初回から具体的なご意見をいただきました。また、他の委員と意見が違うと思ったら、
ちが い ぎろん おも たの しんけん こんご
違うと言っただけならば、もっとよい議論ができるかなと思います。楽しくも真剣に、今後の
ぎろん すす おも ねが
議論を進めていきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

じむきよく た れんらくじこう
(事務局・その他の連絡事項)

ほんじつ ついかしりやう だい かい た ぶん かきやうせいかつどうひやうしやう ぼしゆう おうほうし
本日の追加資料について、第9回はままつ多文化共生活動表彰の募集チラシ、応募用紙を
はいふ まわ がいどう かた ぜ ひ すいせん
配布させていただきました。周りに該当される方がいらっしゃいましたら、是非ご推薦、ご
きやうりよく おも ねが
協力をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

だい かい しんぎかいかいさい じかい がつごろ よてい しょうさい あらた れんらく
第2回の審議会開催は、次回、9月頃を予定しております。詳細については改めてご連絡さ
せていただきます。

ほんじつ みなさま
本日は皆様、ありがとうございました。

4 閉会